

平成30年度 授業改善推進プラン (留意事項)(石原小学校)

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読む力、解決する力が不十分なため、読む力のベースになる読書指導、確かな読み取りの力のもとなる読み取りの観点の指導などを充実させる。 ・漢字の読み書きが定着しない児童が多いため、漢字指導を丁寧にいき、定着を図る。 ・自分なりの思いや考えを言葉で伝える力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみ読む力が育つように、6月と10月の年間2回を読書週間とし、お気に入りの本の紹介を全校児童が一人2枚以上書き、教師や図書委員による読み聞かせを2回以上行う。 ・読み取りの観点を示し、繰り返し指導をしていくことにより、80%の児童が自ら読み進めていくことができるようになる。 ・毎回の漢字指導や宿題、漢字テストなどで定着を図り、80%の達成率となることを目指す。 ・各単元で随時、読み深め合う場を設けて、80%以上の児童が考えを発表できることを目指す。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や白地図の活用、自分の住む地域の図を自分で描いて名称を書き入れたりする活動を繰り返しさせることで、基本的な知識の定着を図る。 ・資料から、情報を正確に読み取ったり、複数の資料を結び付けて考えたりする力が不十分なため、資料を活用する場面を意図的に多く取り入れる。また、資料の読み方を指導したり、資料から自分なりの考えや疑問をもたせたりする活動を設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な地図記号の問題や、調布市とその周りの市区の名称と位置などを覚えることについてワークシートや確認テストで知識の定着を図り、80%の達成率となるよう理解の定着を図る。 ・都道府県の位置や名称の理解を定着させるために、地図帳を活用したり、白地図に書き写したりする活動を重点的に行う。継続して知識の定着を図る。 ・資料の読み取りをして、グループで80%、全体の場合では70%の児童が考えを発表できることを目指す。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導・TT指導により、個に応じた学習を展開する。 ・基礎・基本の定着を図るために、四則計算の練習問題に継続的に取り組む。また、家庭学習でも日常的に取り組ませる。 ・学習した内容をノートで確認できるよう、板書計画やノート計画をしっかりと行う。 ・図や式、言葉を用いながら自分の考えを明確に表現できるよう、ノート指導に重点的に取り組む。 ・児童相互で考えを深めていけるよう、課題に対する検討・交流の時間を確保し、活発な相互啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導により、80%以上の児童が単元の学習内容を理解し、身に付けられるようにする。 ・80%以上の児童が、その時間の課題に対する自分の考えをノートに表現できるようにするとともに、表現できない児童に対しては個別に対応して考えるヒントを与え、友達考えを参考にノートに書けるようにする。 ・発言する児童が偏らないよう配慮しながら幅広い意見から検討させる。児童はその時間内に一度は挙手、発言、質問等で自分の考えを表現することを目指す。 ・児童のノートをチェックして理解度や考え方を評価する。80%以上の児童が、その時間の課題や課題に対する考え及びまとめをノートに書けるようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を正しく行い、その結果を読み取って考察することを苦手とする児童が多いので、傾向や特徴が見えるように結果をまとめ、考えたことをじっくり吟味させる。たとえば、実験後に表やグラフに表して傾向を読み取って考えさせたり、実験結果を共有したりする場を設定する。気付いたことを科学的用語でどう表現するのか例文を挙げて、論理的な表現方法に慣れさせていく。 ・ビデオや写真などの資料を活用し、ノートにまとめさせ、基礎的事項の理解と定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に学習感想や振り返りを書かせ、各自の実験結果の読み取り状況や関心・意欲を把握し、個別指導に役立てる。科学的用語を使ってまとめが書けるように、アドバイスをする。その時間の課題やまとめは100%の児童が写しているが、80%以上の児童が、それに付け加えて自分なりの考えをノートに書けるようになる。 ・実験や観察の結果を表やグラフ等にまとめる方法を経験させることで、考察の仕方を身に付けさせる。個の気付きをノートに書いた後、班や学級で話し合い、共有させることにより言語活動の充実を図る。 ・単元の最後に、プレテストなどで振り返りとまとめの時間を確保し、80%の達成率となるよう理解の定着を図る。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動については意欲的に取り組んでいるが、表現の基礎的な能力が不十分なため、ペア学習やグループ学習を取り入れたり、個別での支援を行ったりする。 ・共通事項(音楽を形づくっている要素)を理解した上で表現の工夫をする力が弱い。音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みや音楽にかかわる用語をおさえながら指導をし、友達同士で思いや意図を交流しながら表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な表現能力を伸ばすため、個人の技能を確認した上で個別指導をする。技能面においては、各学年とも到達目標を80%とする。必要に応じて休み時間等を使って指導したり、友達同士の教え合いを促したりする。また、意欲や達成感を味わえるようにするために学習カードを使う。 ・共通事項については、視覚的教具を使ってわかりやすく指導する。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをもって表現する力を育てる。アートカードなどの鑑賞教材や話し合い活動、発想を広げるための発達段階に合わせた手立て(遊びや読み聞かせ等)を効果的に取り入れる。 ・材料や用具の特徴を活用する力をつけるため、系統的に学習を積み上げる。造形遊び等を通して、材料・用具、色や形のイメージに関する体験を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の終わりの振り返りで、児童自身が学んだことを実感できるようにし、学習体験の定着を図る。 ・感じたことや考えたことを共有する場をもち、70%の児童が自分の考えを表現することができ、80%の児童が自分なりの考えをもてるようにする。全員が感じ方の違いを理解する。 ・各学年80%の児童が学習の到達目標を達成できるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力および握力向上のため、各学年の実態に応じて、導入時にサーキット形式のウォーミングアップを取り入れる(例えば、6年生では、授業の始めに3分間持久走を入れたり、固定遊具を使ったウォーミングアップをしたりする)。また、マラソン週間や縄跳び週間等を設定して年間を通して継続的に運動する機会を設ける。その際低・中・高学年ごとの学習カードを用い、児童が意欲をもって運動できるようにする。10月にマラソン大会を行う。2学期後半、3学期前半になわとび週間を設ける。その時には友達同士の教え合いも取り入れながら技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会では各学年に応じた設定時間内で完走できる児童を100パーセントにするため、2週間あるマラソン週間で5分間歩くことなく走り続けるよう、教員全体で児童に声をかけ、支援・指導する。 ・マラソンカードと縄跳びカードを用意し、短なわ週間には、前や後ろの連続両足跳びを互いに見合うなど学級の友達同士でアドバイスをしながら技能の向上を図る。また大なわ週間も行い、週間の最終日に行う大なわ大会では、低学年・中学年・高学年において6分間でそれぞれ累計160回・350回・500回以上を目指す。その際、記録を大切にしつつも、友達と協力する、ともに成長するという趣意説明も大事にする。 	
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた製作活動では、基礎的・基本的なことを習得し、生活に生かすことができる技能の定着を図る。 ・日常食べている食品に含まれる栄養素の種類や働きを調べたり発表したりして、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・布作品の製作では、毎時間習得すべき技能を80%の児童が確実に身に付けられるように指導する。また、やりきれなかった児童には、授業以外の時間に取り組ませるように配慮する。 ・調理実習では、バランスよく食品を組み合わせて食べられるような献立を考え、各種栄養素の大切さを80%の児童が理解できるよう目指す。 	
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人とかかわる体験が不十分な面があるので、身の回りの人や実物に触れる機会を多く設定し、学習を進めていくようにする。 ・多様な気付きを自らすることが不十分なため、対象とかかわる時間を十分に取る。さらに、活動だけにならないように気付いたことを互いに伝え合う場を必ず設け、対象に対しての気付きを深めていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期2回以上、地域の教材や人材を生かした学習を行う。 ・気付きの視点を児童に示し、児童がより質の高い気付きができるよう、教師が児童のカードにコメントを入れ、気付きの表現の仕方を教えたり、認めたりしていく。 ・実物に触れた後にペアや全体で気付いたことを伝え合う言語活動の時間を設け、気付きの種類を増やしていく。 	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を行い、教員自身の英語活動の授業力を高める。 ・語彙を増やし英語に慣れるために教室掲示や校舎内の掲示物などの環境を整備する。 ・英語に対する苦手意識のある児童も楽しめるように絵カードやゲームなどを工夫し、慣れしていく中でコミュニケーション活動の楽しさを感じられるようにする。 ・リフレクションカードを活用し、自らの成長に気付き、学習意欲が高まるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の英語活動の授業力向上のために研究会を行う。 ・毎回の授業後またはアクティビティの区切りごとにリフレクションカードを記入し、担任やALTが児童の成長を認め、励ますのに役立てる。 ・階段のステップを利用して、英語の色や形など、児童の興味の広がるような掲示を工夫する。また、掲示板に英語活動コーナーを作り、学期ごとに内容を替えて、英語に親しめる環境づくりをする。 	